

(基盤科目)

科 目 名	研究方法特別演習Ⅶ 英語名：Special Seminar on Study Method Ⅶ	必修/選 択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	原田公人	
【授業概要】 研究の構想段階で考えることとして、主張したいポイントとアプローチの方法（研究方法）を明確 することがある。そして、研究目的を達成するために、研究方法の採用が重要となる。このため、本 科目では、研究デザイン、学術論文の要件、臨床研究の倫理について概説し、研究方法の種類として、 調査法、観察法、質的研究法、事例研究法、検査法などについて説明する。 学生の研究能力・論文作成能力を高めるため、個別指導を中心に指導を行う。主な指導内容は、博 士論文の作成を念頭に入れた研究テーマの設定、資料・データの解析、論文の書き方・まとめ方。プ レゼンテーションの方法などである。 また、授業においては、事例（論文）を挙げ、「なぜ」その研究方法を採用するのか、選んだ研究法 が目的の達成にどのように合致するのかについて演習する。				
【キーワード】 量的（定量的）研究、質的（定性的）研究、データ解析、クリティカル・シンキング				
【授業の到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・ 量的（定量的）研究の性質や分析法を理解できる・ 質的（定性的）研究の性質や分析法を理解できる・ リサーチクエストionsに対応した適切な研究方法を選択することができる				
【教育の方法】 スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
【授業計画】				
回	内 容			
1	オリエンテーション：本授業のねらいと概要【SC】			
2	先行研究レビュー			
3	データ収集の基本方針			
4	観察法、面接法（インタビュー法）			
5	質問紙法、実験法			
6	サンプリング、標本抽出			
7	学術論文の構成・参考文献の書き方・研究倫理			
8	社会調査法【SC】			
9	質的研究法、			
10	事例研究法			
11	研究テーマ・リサーチクエストionsの設定			

12	研究テーマに応じた研究方法の検討
13	研究計画の検討
14	先行研究の選定、資料・文献検討
15	まとめ（研究テーマの設定と研究の展望）【SC】
試験	
<p>【履修にあたっての準備・履修上の注意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究方法に関する何らかの授業を修士課程等で受講していることが望ましい。 ・初回スクーリング受講後は、指定したテキストを読み、理解を深めておく。 	
<p>【スクーリングでの学修内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修の初期では、授業目的や内容を知り、自身のこれまでの研究方法に関する学修の説明ができるようにしておく。 また、スクリーニングにおいては、各研究法の概要を確認し、自身の研究テーマに沿った研究法を選択できるようにする。 ・学修の後期では、研究計画を作成し、これに基づいて研究を実施する。 また、スクリーニングにおいては、投稿を予定している学術誌の調査（主として研究法）結果の報告やクリティカル・シンキングによる先行研究を吟味する演習を行う。 スクーリングはこの2つの時期を含み、合計 4 コマ 6 時間以上をめぐりに行う。 	
<p>【評価方法】</p> <p>合否については、研究計画・方法に関するプレゼンテーション・レポート（50%）、科目修得試験（50%）で評価する。</p>	
<p>【教科書】</p> <p>高橋順一、渡辺文夫、大淵憲一編著『人間科学研究法ハンドブック【第2版】』ナカニシヤ出版、2018年</p> <p>その他は授業時に提示する。</p>	
<p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中敏、山際勇一郎著『新訂ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』教育出版、1995年 ・佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2011年 ・大谷尚『質的研究の考え方』名古屋大学出版会、2021年 ・スタイナー・クヴァール、能智正博、徳田治子「質的研究のための「インタ・ビュー」」、新曜社、2019年 ・樋口耕一『社会調査のための計量テキスト』ナカニシヤ出版、2014年 ・クラウド・クリップENDORF、三上利治、椎野信雄、橋本良明『メッセージ分析の技法』、勁草書房、2006年 ・酒井隆『アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2022年 	
<p>【教員メッセージ】</p> <p>研究論文は、研究法なしには成立しません。適切な研究法を選べるかどうかで、論文の質が決まることもあります。演習を通して、自身のリサーチクエスションや研究目的を達成する研究法を検討します。</p>	
<p>【備考】</p> <p>特記事項なし</p>	